

## 5. 病院での被害状況（岩手県・宮城県）

東日本大震災では、病院でも津波被害を受けて大きな犠牲が出た。医師や看護師などの医療職員も犠牲となっている。大きな人的被害を受けた病院での犠牲者は次の通り。

県	市町村	施設名	標高	海岸線迄	建物	入院患者	医療職員
岩手県	陸前高田市	県立高田病院	3m	約 1.2km	4階建	12名	8名
宮城県	南三陸町	志津川病院	1m	約 300m	4階建	72名	3名
宮城県	石巻市	石巻市立雄勝病院	1m	約 30m	3階建	40名	24名
宮城県	石巻市	恵愛病院	2m	約 900m	2階建	24名	3名

【注】標高は地理院地図（電子国土Web）より、海岸までの距離は Google Earth による。

### 【病院毎の状況】

#### 1) 県立高田病院

最上階の4階まで浸水し、入院患者51人のうち12人、82人のスタッフのうち8人が死亡した。職員らは500メートル先の防潮堤を越えるまで津波の襲来に気付かなかった。異変に気づき、階段を駆け上がった瞬間、津波に襲われ、4階病棟の入院患者を避難させる余裕はなかった。同病院が新築移転したのは1976年。高台に建設する案もあったが、地域住民の強い要望で現在地が選ばれたという。あと数メートル波が高かったら、患者も職員も全滅していた。外来患者がいる午前中だったら、200人を超す犠牲者が出たかもしれない。

（岩手日報 Web News :2011年6月7日）

#### 2) 志津川病院

海からの距離わずか400メートルの平地に立つ宮城県南三陸町の公立志津川病院。東日本大震災で入院患者107人のうち72人が死亡・行方不明となり、院内では看護師と看護助手計3人も波にのまれた。病院は東棟（4階）と西棟（5階）の2棟。津波は4階まで達した。入院患者の多くが自力歩行困難な65歳以上の高齢者だった。（河北新聞:2011年6月7日）

#### 3) 石巻市立雄勝病院

病院は3階建てで高さは15m雄勝湾を臨み道路を挟んだ低地に建っていた。入院していた患者40人全員死亡・行方不明、医師、看護師24人全員死亡・行方不明。生存者は、70人中、わずか6人。通院患者はおらず、40人の入院患者が全員、病室のある3階にいた。大半は寝たっきりの高齢者。看護師に付き添われて屋上へ逃げた患者も、医師も、何度も押し寄せて、そのたびごとに高くなる波に、屋上にいた全員が飲み込まれた。

#### 4) 恵愛病院

患者24人が津波で亡くなった宮城県石巻市の民間精神科病院。生き残った患者や職員は3日間、気付かれないまま孤立。石巻漁港から北へ約1キロ、石巻市伊原津地区に精神科の恵愛病院(120床)があった。震災が発生した2011年3月11日、115人の患者を2階に避難させる途中、津波が1階の窓を突き破った。逃げ遅れて命を落とした24人は寝たきりや車いすだった。

(平成28年3月追記)

#### 【考察】

病院が津波に遭った場合、身動きの出来ない入院患者とその患者を見捨てられない医師、看護師等が共に犠牲となってしまう。患者の生命を守るために最後まで戦う医療従事者のためにも、また患者を病院に預ける家族のためにも、災害拠点病院は無論のこと、入院病床保有の病院は、その立地・耐震化および津波に遭わない安全な場所に施設を置くことが必須である。

※石巻赤十字病院はこの震災で被災はしなかったため、石巻地区の災害拠点病院として全国からの支援医療チームを受け入れ被災者のケアを行なうことができたが、これも5年前に現在の地に移転をしていたがゆえに出来たことであった。以前の場所であれば津波被害を受け全壊していた。従って、安全な場所への移転は一日でも早く計画し実行することが必要である。